

事業計画合意形成及び利・活用、景観検討への取り組み！

●「推込分水路水理模型公開実験」を開催

地域住民から「推込分水路の整備により虎居地区の水位は本当に下がるのか」、「効果を明確に説明して欲しい」等計画に対する疑問の声があったことから、九州大学と連携し周辺地域の景観も再現した1/200模型を作成し、住民立ち会いのもと平成19年9月20・21日（2日間）公開実験を開催し、多くの方々に分水路整備による上流の水位低減効果について確認していただきました。その結果多くの方々に事業内容の理解を得ることが出来ました。



分水路の効果を確認

島谷教授による事前説明

模型概要図

● 宮之城地域川づくり検討会及び住民部会による地域と協働した川づくりの検討

- ・第1回検討会・・・H19.11.22 現状及び計画概要、今後の進め方について説明
- ・第2回検討会・・・H20. 8. 1 第5回迄の住民部会検討結果について報告
- 住民部会：H19.12.7～H21.3.8迄に計6回の住民部会を開催し川づくりを検討
- 【利・活用】地域の意向を踏まえ散策可能な河川沿線の回遊路や多目的広場等を創出
- 【景観】橋梁等からの視点場から見た景観を重視して直線にならない平面線形を検討



住民部会での検討

第2回検討会での報告

分水路完成予想模型

●「事業着手までの取り組み」

- ・H19年5月22日：「川内川宮之城地域景観水理模型実験に関する事前説明会」を実施
- ・H19年6月 2日：住民参加型の「水理模型実験ワークショップ」を実施
- ・H19年6月28日：推込分水路予定箇所の計画説明会を実施
- ・H19年8月 4日：虎居地区築堤計画に関する地元説明会
- ・H19年9月20・21日：推込分水路水理模型公開実験（模型制作6月～9月）
- ・H19年10月～：推込分水路予定箇所について用地測量開始
- ・H19年11月～H21年3月：宮之城地域川づくり検討会及び住民部会を実施
- ・H20年2月～：推込分水路の用地取得に着手
- ・H21年4月～：推込分水路掘削工事に着手

川内川激甚災害対策特別緊急事業 「推込分水路」

推込分水路は、さつま町屋地地区に新たに洪水を流す水路を創り、平成18年7月洪水において甚大な被害を被ったさつま町宮之城地域の洪水被害を低減させるものです。

激特事業の工期は概ね5ヶ年とされており、平成23年6月（出水期前）までの完成を目標に事業推進に努めています。



推込分水路は、宮之城市街地近辺に位置することから住民の方々と協働して川づくり検討を実施し、特に景観等に配慮して計画しました。



平常時：宮之城地域

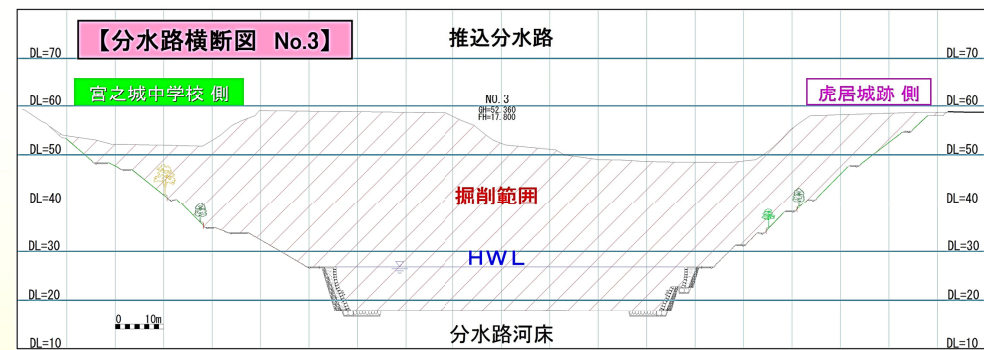
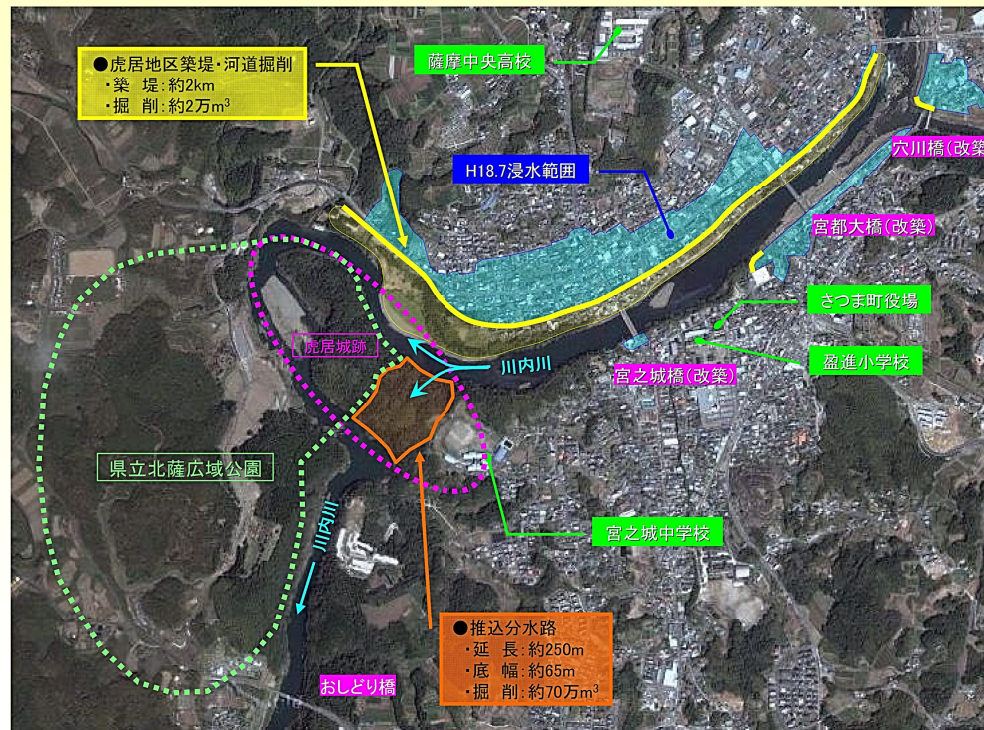
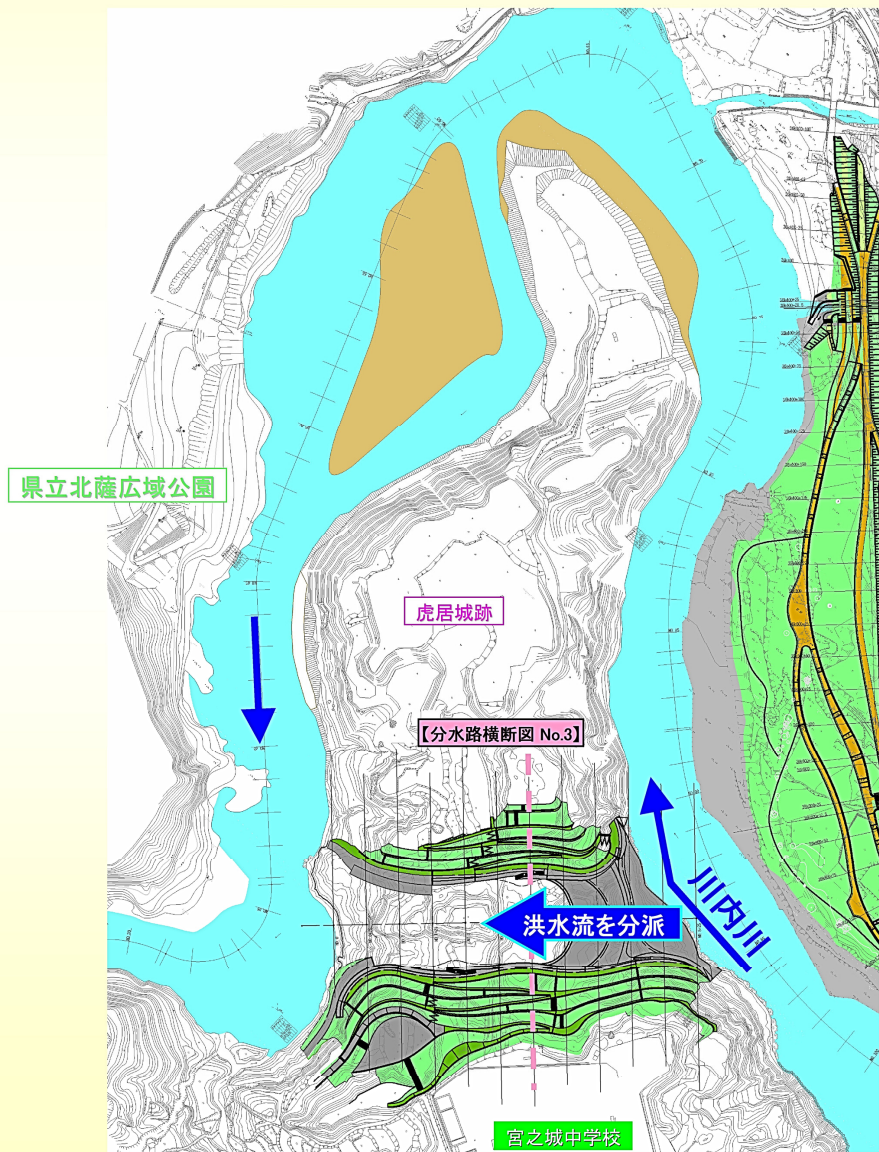


H18.7洪水時：宮之城地域

● 「推込分水路」～事業実施中～

水害の軽減に向けて！！

「推込分水路による洪水流分派」と「上下流の河道掘削」により『上流域の水位低下』を図ります。また、堤防を整備することで、平成18年7月洪水が外水はん濫無く流下します。



○事業期間(工事)

平成21年4月 ～ 平成23年6月(出水期前)までの約2ヶ年を予定しています。

○事業量

土砂掘削	約50万m ³
岩掘削	約20万m ³
計	約70万m ³

○コスト縮減対策及び資源の有効活用

掘削土砂は、築堤材料として使用しています。推込地区(さつま町)及び曾木地区(伊佐市)の分水路掘削工事により生じた岩塊は、石積護岸として加工・再利用しています。